

日本医療福祉生活協同組合連合会

東日本大震災支援ニュース No.32

(2011年4月4日 20時現在)

被災地の医療福祉生協の状況

○松島医療生協



かつて中越地震で被災したながおか医療生協の理事長が陣中見舞いに。4月2日、組合員有志が全国からの支援者に「ありがとう！」を心に込めた昼食を差し入れ。4月4日から、全組合員訪問をスタート。通所リハビリ（おたっしゅデイ）は4月4日から、入浴を開始。（4月4日付“大震災に負けない！松島・日本・医療生協！”ニュースNo.3より抜粋、写真

は医療福祉生協連から贈られた電動自転車4台を囲んで、松島海岸診療所のスタッフと庄内医療生協など全国からの支援者のみなさん)

○福島医療生協



4月2日（午後、福島駅前通りで行った街頭募金には、組合員・職員合わせて50人が参加。新入職員4人、今年看護学校に入学する学生1人も参加。被災の影響で人通りが少なく、冷たい風が吹く中、元気に募金を呼びかけ、約40分間で102,527円の募金が寄せられました。ある運営委員ご夫妻は一人暮らしの方を訪問したり、機関紙手配りさんに連絡し安否確認を行いました。対策ニュースをコピーし独自のお願い文書を付けて班長宅を3～4日間回り、13世帯から154点の下着・靴下類を集める。（4月1日及び2日付東日本大震災対策ニュースNo.17及び18より抜粋）

○郡山医療生協

4月1日、看護師3名、理学療法士1名が避難所を訪問し、血圧チェックや健康状態の観察を実施。病院と組合員宅で計300人分のご飯を炊いて避難所へ。食後のお汁粉と一緒に提供。尼崎医療生協から届いた物資の中から子供用衣類を避難所へお届けしました。

4月2日、医療福祉生協連の新潟物資支援センターから、紙オムツ、医薬品等の支援物資が到着。不足していた経管栄養剤、電動自転車など在宅患者支援に。また、届いた物資をすぐに仕分けし、浜通りへ第4次搬送。当初1台の予定を水や物資の量から急きょ4人2台に変更。

全国から寄せられた支援物資を社会福祉法人くわの福祉会（富岡町から避難してきた特養入居者の受入れ）、郡山市社会福祉協議会、郡山市災害対策本部、郡山高校（双葉町からの避難所）、安積高校（双葉町からの避難所）、南三陸町避難所（医薬品等）、南相馬市避難所（衣類等）、浜通り医療生協、福島中央市民医療生協等への支援へ活用。紙オムツは、社会福祉協議会を通して市内のヘルパーステーションに配られ、在宅の要介護者へ配布。（4月2日及び4日付対策本部ニュースNo.17 及びNo.18 より抜粋）

○浜通り医療生協

理事が地震当日から病院に駆けつけ、一日も休まず浄水場に水をくみに往復。多い日で1日に10往復以上。くみ上げるポンプも手配。体制の厳しかった彼岸の連休には、3tトラックも手配。結果、病棟での入浴介助等が可能に。また、4月1日新年度を迎え、新入職員を迎え新入職員辞令交付を実施。（4月1日付応援ありがとうニュースより抜粋）

支援状況

○医療福祉生協連

4月2日早朝、新潟支援物資センターから支援物資を乗せたトラックが福島に向け、出発。

医療福祉生協連創立記念「高齢者にやさしい都市（まち）づくり」シンポジウムで、「高齢者にやさしいまちづくりとWHOのグローバルネットワーク」について基調報告を行った世界保健機関（WHO）ジョン・ベアード高齢化と人生部部長から3月24日付で「日本を襲った悲劇と、命を落とし財産を失った協同組合の職員・組合員に心より哀悼の意を表します」「医療福祉生協の強みである組合員と職員の熱心さを十分理解しています。みなさんが、日本の対応と大震災からの復興で重要な役割を發揮すると確信しています」とのメッセージが寄せられた。

○盛岡医療生協

3月28日、29日、大船渡市から医療支援の依頼を受け理事長、看護師1名を派遣。この間大船渡市、陸前高田市に4次にわたる支援隊を派遣。盛岡医療生協・岩手民医連からの支援は延べ127名に。（4月1日付対策本部ニュースNo.12 などより抜粋）

○はるな生協

4月5日、高崎市の六郷長寿センターに避難している避難者への相談会を実施。同生協は医療相談を担当。医師、看護師、組合員活動部職員らが参加。弁護士の協力で法律相談も。(4月4日付支援ニュースNo.5)

○茨城保健生協

4月1日、下市商店街で、保健生協・城南病院の新入職員4名を含む6名が「震災支援募金」を訴え。(3月31日付、東日本大震災対策本部ニュースNo.21より抜粋)

○川崎医療生協

福島県から、こどもや友人を頼り坂戸診療所の近くに避難されている方が来院。3月30日までに、4人の患者さんが利用。(3月31日付、東日本大震災対策本部ニュースNo.25より)

○西都保健生協

4月1日、医師1名、看護師1名含む計8名が宮城県塩釜市の支援拠点病院に到着。(4月2日付明るいまちづくりニュースNo.64より)

○浜北医療生協

4月4日、福島に向け、支援物資を搬送。



○やましろ健康医療生協



3月31日午後、あさくら診療所医科・歯科の職員で、スーパー前で義援金カンパ活動を実施。医科所長、歯科所長、歯科医師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、事務で1時間。診療所にも義援金箱を設置、3月31日時点で、20万円もの義援金が寄せられる。(4月3日付あさくら診療所・医科の上坂事務長からのメールより抜粋)

○尼崎医療生協

看護師2名、介護福祉士2名の計4名が第4次医療支援隊として、2日に出発。宮城県塩釜市の支援拠点病院に、3日午後3時ごろ到着。4日は、午前7時30分に出発、看護師1名、介護福祉士2名が、みやぎ県南医療生協に支援入り。また、第8次支援物資を4月1日(金)に発送。現地では入手ができない、レトルトおかゆ、オムツ、生理用品などを中心に、ダンボールで10箱、福島県の医療生協へ。(4月1日、4日付東日本大震災救援ニュースNo.16及びNo.18より抜粋)



○ろっこう医療生協

地震直後から開始した支援募金は、3月31日までに1,168,060円に。4月1日、医療福祉生協連に送金。また、灘診療所に毎週末に応援診療に来ている千葉誠医師は、現在も故郷の岩手と神戸を往復しながら、現地では被災した人々の医療支援を継続。
(4月4日付対策本部ニュース「心つないで」No.4)

○津山医療生協

4月2日現在、義援金は684,066円に。うち500,000円を3月30日に医療福祉生協連へ送金。

○広島中央保健生協

4月3日、看護師1名、保育士1名が、4日には検査技師1名が医療支援第3陣として出発。(4月2日付支援対策ニュースNo.18より抜粋)

○医療生協健文会

3月31日、宇部協立病院の院長と師長1名が宮城県塩釜市の支援拠点病院に向け出発、4月1日現地到着。また、コープやまぐちより「緊急支援物資として現地に送るために確保しているものがあるので提供しましょう」との連絡が入り、確保分の中から、(2L×6本)×100ケースの無償提供を受ける。早速、浜通り医療生協へ発送手続き。(4月1日付支援ニュースNo.5より抜粋)

○鳥取医療生協

3月31日、薬剤師1名、看護師2名、看護介護助手1名ら第5次医療支援チームが出発。(3月31日付支援対策本部ニュースNo.28より抜粋)

○高知医療生協

4月4日、第3次支援として高知生協病院リハビリテーション科職員1名が出発(4月2日付災害支援ニュースNo.14より抜粋)

○香川医療生協

4月4日、マスク1222枚、紙おむつ924枚、尿とりパット629枚、下着等を送付。一品一箱にわけて大小26箱に。(ニュースNo.286より抜粋)

義援金総額 (4月4日現在)

6547万7300円 (42生協、個人、事業者)

担当：江本 (at_e@hew.coop)・丸山 (kj_m@hew.coop)
電話：03(4334)1580、FAX：03(4334)1585

*次回の東日本大震災支援ニュースは4月6日を予定しています